



看護師の記録について

コラム

坂総合病院 QI 委員 8 階病棟看護師 久保篤子

看護師が書く記録というと、皆さんは「看護記録」「検温表」「看護計画」などを思い浮かべるとと思います。

看護記録は普段の経過記録はもちろんのこと、医療機能評価に耐えうる内容の記録が求められます。身体拘束について検討した内容、看護師カンファレンスや多職種カンファレンスの内容、看護サマリーなども記録として残す必要があります。

検温表に入力したデータを基に、アセスメントも必要となります。

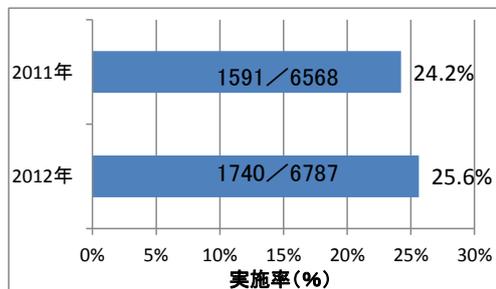
看護計画は、立案したら必ず評価が必要です。患者の状態に合わせて計画を修正したり継続したり中止したり。新たな問題点が発生したら、新たな計画を立案する必要があります。

上記以外にも、看護師が入力しなければならない記録物がとてもたくさんあります。「入院時スクリーニング用紙」「退院支援計画書」「NST（栄養サポート）入力」「看護必要度」「転倒転落アセスメント」「褥瘡管理（褥瘡危険因子、褥瘡評価表）」「注射や看護処置等の実施確認」などなど…

私達が入力した記録やデータは統計にも反映し、医療の質を表す指標にも繋がっています。忙しい業務の合間に毎日たくさんの記録に追われて大変ですが、自分たちの行ったことを記録に残すことで、質の高い医療・看護の提供に役立てて行ければと思います。

指標紹介

リハビリテーション実施率



一昔前までは、リハビリテーションとは一般の病院で行うものではなく、温泉地など人里離れた病院で気長に取り組むものだと思われていました。しかし現在では一般の急性期医療の不可欠の要素として考えられています。高齢な患者さんにとって肺炎など急性の疾患は内蔵の病気という枠を超えて体力をも奪う事態です。病気によって筋力や心肺機能を低下させないための取組みが医療の一環として位置づけられるようになりました。厚生労働省も廃用症候群というこの状態にリハビリテーションを提供することを認めています。臓器治療以外にも生活機能にしっかりと目配りした医療を提供しているかどうかを検討するさいに、このリハビリテーション実施率を知ることが有用となります。どのような医療活動を行っているかが、このリハビリテーション実施率にも影響します。たとえば小児科や産婦人科が充実している病院ではこの値は低めになりますし、脳卒中や整形外科の医療が充実していれば相対的に高くなります。

当院の場合、リハビリテーションの専門病床である回復期リハビリテーション病棟も含めて算出して、全日本民医連のデータの中央値よりさらに低い値となっています。300床以上、DPC病院、基幹型臨床研修指定病院の14病院で比べるとほぼその真ん中の位置を占めます。リハビリテーション専門医が4人、リハスタッフを80人以上も抱える病院としてこの値が妥当なのかどうか、今後検討していかなければなりません。

QI 委員会委員長 富山陽介

シリーズ“統計のはなし” No.7

第7回目は「統計学が関わった日本の歴史」をテーマにします（予定していた「記述統計量」は「学術活動支援」と被ったため一回ずらすと思います）。それでは本題。

日本語から漢字が消えていたかもしれない？

日本がGHQの支配下にあった頃のお話。教育改革の一環に「漢字廃止・ローマ字化」計画がありました。アメリカ人には、漢字を一般庶民に教育するのは難しいように見えたのです。実態調査として1948年に「日本人の読み書き能力調査」が行われました。約1万7千人を対象にした結果、識字率約98%と驚くほど高いものでした。この調査のお陰で漢字は日本語に残り、常用漢字が整備されたそうです。なお、調査者の一人、林知己夫先生の「数量化理論」は現在でも使われている統計の手法です。

高度経済成長には統計学も関わっている？

同じ頃のお話。技術指導者としてW・エドワード・デミングさんが日本に招かれました。彼の指導により、仮説検定、不良品率の管理などの統計学の手法が製造業や企業経営にもたらされました。日本の製品の品質の良さは統計学が関係していると言えそうです。

ところで「PDCAサイクル」という言葉を聞いたことがありますか？「計画・実行・評価・改善」の段階を繰り返して仕事を改善する手法です。デミングさんはこの手法の提唱者でもあります。さて、今回のコラムは趣向を変えたテーマでお送りしました。みなさんの身近にも「データを元に考える・決める」ことがないか探してみるのも面白いかもしれません。

医療情報企画センター SE

佐藤洋之

次号（第8号・1月発行予定）のご案内

今回は引き続き指標紹介「褥創新規発生率」、シリーズ“統計のはなし” No.8を予定しています。

